

平成 28 年度復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業 会津大学研修

平成 28 年 10 月 14 日(金)、本校南体育館において会津大学研修講演会が行われました。今年度のテーマは「グローバル化社会に生きる高校生にとって大切なこと」です。

会津大学からお招きした 4 人の講師の先生方に、「海外留学体験で学んだこと、そして今後活かすこと」についてお話いただきました。



始めに、会津大学総務予算課職員の藤田篤さんに中国留学についてお話いただきました。想像できないようなカルチャーショックを多く経験された藤田さんは、「百聞不如一行」をさらに発展させた「百聞不如一行」という言葉で、何事も経験してみることの大切さを強調されました。講演後の生徒の感想からは、多くの生徒が「百聞不如一行」のお話に深い印象を受けたことがわかります。



次に、スーパーグローバル大学推進室の職員で本校卒業生でもある鈴木光さんが、ドイツ留学についてをお話くださいました。鈴木さんはドイツ留学の魅力を伝えると同時に、震災後福島がドイツで非常に注目されていること、必ずしもありのままの姿が伝わっていないことを教えてくださいました。生徒達は自分たちにできることは何かを考えさせられたようです。



続いて、会津大学博士後期課程1年のグエン・ヴァン・ドゥックさんに、ベトナムから日本に留学している立場からお話いただきました。ドゥックさんは常に具体的な目標を立て、目標に向かって努力されていました。彼の真摯な学習姿勢は、生徒達にとって手本となるものでした。



最後に、会津大学国際戦略室長 川口 立喜准教授に、海外での経験と、それを活かしたその後の活動についてお話いただきました。川口先生の、「できるかできないかではなく、やるかやらないかが大事」という言葉に、生徒達は大いに勇気づけられたようです。また、自分や自分の住む地域のことをよく知る事の大切さも再認識していました。



4人の先生方のお話を聞いた後、アイスブレイキングとして、それぞれの留学先や母国の挨拶をご紹介いただき、ペアになって挨拶を体験しました。言葉だけでなく、挨拶に伴う行動にそれぞれの文化が反映していることを実感しました。

最後の質疑応答では生徒たちは積極的に手を挙げて質問し、それぞれの質問に対してとても丁寧に答えていただきました。時間がオーバーしても生徒の質問は途切れず、関心の高さが表れていました。



生徒の感想(抜粋)

・先生方の海外留学のきっかけは様々でしたが、皆さん自分で決めて行動し、努力していてカッコいいなと思いました。自分も先生方のように目標を立てて努力し、自分に甘くならないで、達成できたらまた新しい目標を立てるようにして、常に向上心を持って自分から行動していきたいです。

・外国に行くにあたって、言語だけでなく、相手の立場、視点に立って考えることが大切だということも感じた。他国の人々は文化が自分と大きく異なり、自分の当たり前が相手にとってはそうでないことが多々ある。それをしっかり考慮しなければならないが、それと同時にその文化の違いこそが、自分にとってよい刺激となり、成長できるのではないかと思った。今、自分が見ているのはとても狭い世界だ。それを飛び出して、もっと自分の世界を広げるために、これから異世界を見たり、感じたりしたい。

・この講義全体を通して、グローバル化社会に生きるには、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する」ことが最も重要であると学びました。それを実践するために、私はニュースを見て少しでも疑問に思った事があれば答えを導き、身近な地域で起きている、または起こるかも知れない問題を解決するために応用していきたいです。

・私も、いろいろな国のいろいろな文化の人々と話して、多くの考え方を知り、自分の考え方を広げたいと思っている。この気持ちを原動力に、もっと自分から国際交流について調べたい。また、高校生のうちに外国人との国際交流プロジェクトに参加したいという思いが芽生えた。

・勇気を出して相手に話しかけ、思いを伝え、互いに考えを話し合うことはすごく難しいことだと思いました。これを乗り越えるためには、今コツコツと勉強をして、見識を広めて、たくさんの方に興味をもつことが大切です。そして机へ向かう勉強だけでなく、積極的に社会と関わることも重要です。将来の自分のために様々な勉強をしていきたいと思いました。できるのかできないのか、ではなく、やるかやらないか！！を忘れないようにしたいです。